

(様式1)

平成28年度 学校評価報告書 (学校評価結果のとりまとめ)

神戸市立神港高等学校
校長：山下 哲朗

項	重点目標(取組)	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価でいただいた意見等
一人一人の自立に向けた力を伸ばす	・きめ細やかな教育指導の充実と評価	・評価方法を工夫した。観点別評価の導入することにより授業改善を図った。	B	・評価方法を教科間だけでなく、学校全体で研修と検証をする。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学力を伸ばす為にも教員が何を評価の観点にするのか、しっかりと検討し、きめ細やかな支援を継続することが重要である。 補習の取り組みの重要性を感じた。学校の授業が大切だが、更なる実力を伸ばすための早朝、放課後の補習の実施には、頭が下がる思いである。 教科間のバランスが必要で、進路担当教員が補習を統括し生徒の状況に応じた補習計画と実施を望む。 進路に関して教員の知識が必要で、知識、分析があつて初めて指導が生きてくる。したがって、予備校、塾などで、公開された情報の主体的な収集は必要であると感じた。 キャリア教育は、非常に大切で、人生の目標を生徒に真剣に考えさせることが必要である。 人生の目標を達成できるような資質や能力を高める機会の提供が必要である。
	・確かな学力の育成一力のつく授業の推進	・早朝、放課後の補習を充実させた。 ・夏休みの補習を増やし、生徒の学習サポートの機会を増やした。	B	・計画的な補習(早朝・放課後)の充実 ・他教科との連携がとれた補習をする。	
	・就職・進路ガイダンスの実施	・商業学校として主体的な職業意識と職業選択能力の育成等、キャリア教育につながる指導の実施(各学年)した。 ・就職ガイダンス(職業観・勤労観を高める指導は、中小企業家同友会・公共職業安定所の方々の協力により)実施した。 ・卒業時進路満足度調査の結果、満足が91%達成した。	A	・生徒一人一人の希望する進路実現ができるよう学力、技能の把握と生徒自身の自律性を高めたい。	
実教力を員磨き・学校高めの魅力と	・校内研修の充実 積極的な授業公開とアンケート実施	・6/16~27までの約2週間を授業公開週間とし互いに授業を見学し合うことにより指導方法の向上を図った。 ・学年末に、授業のアンケートを実施した。	B	・授業アンケートの活用の仕方と時期を検討する必要がある。 ・アンケート結果を、どのようにフィードバックをするのかを検討する。	<ul style="list-style-type: none"> 要望として、来年度、閉校という状況であるが、今までのように、最後まで中学校に情報を与えて欲しい。 授業アンケートの活用の仕方と時期を検討する必要がある。アンケートの取りっぱなしにならないようにして欲しい。 授業公開は、教科間だけでなく全体での取り組みとして行うべきである。 閉校に係わらず、安心して学べる教育の環境と体制作りが必要である。 先生方の合同の文化祭、体育祭の取り組みの困難さは理解できる。
	・情報発信の充実	・Webページによる情報発信 ・中学校向け新聞による情報発信"・特色ある行事や活動をWebページにリアルタイムでタイムリーに公開した。 ・学生の活動時期や対象を考慮した記事を市内中学校に配布した。	A	・学校評価の結果もホームページに載せていきたい。	
	・三校併置の取り組み	・三校合同行事(新入生歓迎行事、体育祭、文化祭)を実施した。 ・同窓会、保護者会の会議での学校方針の理解と協体制作りを推進した。	A	・三校併置は大変な状況であるがマイナス面ばかりでなく、他校との連携や刺激を考えるとプラス面も多い。プラス面を具体的に生かす方策を考える。	
発育神戸を戸さ更のせに教	・神戸らしい教育	・こべっこマップ(6小学校と連携・絵本神戸祇園物語)神戸をテーマにして、防犯、防災教育の「震災の記憶マップ」「子供110番の家と店」、郷土教育の「神戸祇園物語」自然教育の「昆虫図鑑」を行った。	A	・閉校の為 今後の小学校との連携行事の継続する為に、組織づくりを推進する。 ・震災の記憶を風化させない取り組みを推進する。	・学校間の活動にはテーマがあり、質の高さを感じた。防犯、防災教育の「震災の記憶マップ」「子供110番の家と店」、郷土教育の「神戸祇園物語」自然教育「昆虫図鑑」などの実践報告会を聞き、今後も継続して欲しいと感じた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・生きる力の基礎となる「言葉の力」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ショートホームルームでの読書タイムを作り読書の習慣づけをした。学校図書館を活用した学習指導を行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の蔵書の検索システム、データベース化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館の充実は、学校運営の課題の一つである。
市民が自ら学び子供の育ちを共に支える	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動による地域との連携 ・生徒会による地域との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・湊川アート縁日、相楽市、KOBEマラソンチャリティコンサート会場、人と防災未来センター夏休みこども防災未来学校に参加、吹奏楽部による北区の行事に参加、神戸流科大連携により、書道部、美術部の生徒作品を文化祭にて出展 ダンス部 神戸まつり、兵庫区運河祭に参加をした。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動において、生徒が主体性を持って活動できることが大切であると痛感した。三校併置での活動の連携を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バレーボール部の神港橋高校との合同チームでの近畿大会の出場、吹奏楽部も合同での演奏会、コンクールの出場、ダンス部もまた、合同チームで兵庫区の“運河まつり”、“神戸まつり”の出場、書道部の全国大会出場等。合同で活動している部活動の活躍をうれしく感じた。”
	<ul style="list-style-type: none"> ・兵庫税務署による租税教室の開催 ・企業の講師による金融教育講座開催 ・市民専門講師の活用 ・継続的な外部との連携授業 	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度も例年通り、大原簿記専門学校神戸校のご協力を得て、3日間の上級簿記夏季集中セミナーを実施できた。結果、1月実施の簿記検定1級取得結果に効果がみられた。 ・本年度で16年目となる租税教育を、神戸税務署税務広報広聴官を講師としてお迎えし、3年生対象に実施した。来年度は、教育現場との共同制作の教材を用いて、更なる租税教育の効果的な教育実践を行いたい。 ・昨年度実施した、企業による金融教育から、兵庫県金融広報委員会による金融教育に変更し、2年生を対象に金融教育講座を実施した。本年度は前半講座であり、来年度は後半の講座を実施予定である。 ・市民専門講師として、近畿税理士会の特別講義を3学期に実施予定である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各検定の合格率は例年並み、または例年以上の結果を出せている。神港高校最後の商業科生徒の学力向上、上級検定取得に向けて、教科一丸となって引き続き指導を強化していきたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動は、生徒の人間性を磨ける良い機会であると認識している。 ・先生方の商業教育にかける熱意を感じた。簿記検定の高い合格率を維持のため専門学校の連携は良いアイデアである。 ・学校内での教育活動だけではなく税務署、金融広報委員会などの協力を得て実社会に役立つ教育の場を与えることの大切さを感じた。継続して欲しい。

*セルの数や大きさは、変えていただいてもかまいません。